

ベトナム航空

3台目のラッピング車は中部を拠点に運行



航空貨物の空港間輸送などを行う平野ロジスティクスの運行車両で、ベトナム航空 (HVN) のラッピングを施したトラック (以下、看板車) として3台目となる車両がこのほど、羽田のTIACT (東京国際エアカーゴターミナル) で披露された。

2016年から3年連続で看板車を導入

会場となったTIACTでは、既に運行中のHVN看板車2台が両脇に駐車する形で、3台の揃い踏みとなった。写真上の向かって左から、2台目、3台目、1台目の看板車。

3台目 (中央) は96インチULD対応の日野自動車製フルエアサスペンション10トン車。荷台は後部ドアのほか、側面からの貨物の積み降ろしが可能なウイング仕様となっている。さらに荷台の床面にはローラーコンベアを備え、荷役をよりスムーズに行える機能を持つ。

両側面には青空を飛行する新鋭機B787-9が、ベトナムの国花であるピンクの蓮とともに描かれており、後部ドアはリゾートとして人気の中部ダナンの夜景となっている。

HVNの1台目の看板車は2016年7月から、成田・羽田など主に首都圏を中心に運行、昨17年7月には2台目が関空など西日本を主体に運行を開始した。

HVNは現在、成田／中部／関空／福岡からそれぞれホーチミン線とハノイ線があるほか、羽田～ハノイ線と成田～ダナン線を運航しているため、航空貨物の日本国内の



トラック輸送量も多い。

1台目の首都圏、2台目の西日本に続き、3台目は名古屋など中部地区を主体に運行されるという。となれば、福岡を中心に運行される4台目の看板車も可能性がありそうだ。

写真下は後部ドアを背に、左から平野ロジの益子研一取締役営業本部長、HVNの貨物GSAウエスタンアソシエイツ (WAI) の千葉豊・専務取締役執行役員、HVN日本支社のヴーゲンクォイ日本地区総支配人、同ルウゴックタン日本地区貨物部長、WAIの大西知一・代表取締役社長。 ■